

「蓮舫代表の二重国籍を追求し国会議員失格を求めてください」

平成 28 年 10 月 25 日

● terusou harada さんからの質問

民進党蓮舫代表の二重国籍を追及、国会議員失格を求めてください。法治国家を守るために。

●西田昌司の答え

蓮舫さんのお父さんは台湾人、お母さんは日本人ですが、日本の国籍法は昭和 59 年までは父系主義が採られていたために、蓮舫さんは生まれた時には台湾籍（中華民国籍）でした。しかし昭和 60 年に国籍法が改正され、蓮舫さんは日本国籍を取得することができるようになり、蓮舫さん自身が述べているように蓮舫さんは 18 歳（昭和 60 年）の時に日本国籍を取得しました。一方で、台湾国籍法には満 20 歳以上でないと台湾籍（中華民国籍）を喪失することができないとされていますので、蓮舫さんは少なくとも 18 歳から 20 歳までの間は二重国籍であったこととなります。日本の法務省は、重国籍者は 22 歳に達するまでにどちらかの国籍を選択する必要があると注意を促していますが、蓮舫さんは 22 歳になってもそのような対応をせずに二重国籍のまま現在に至っているのです。

ちなみに私は、二重国籍をお持ちの一般の方に対してはそれを咎めるつもりは全くありません。韓国人の男性と日本人の女性の間生まれた子供が二重国籍であるといったような例はいくらでもありますし、そういった方はどちらかの国籍を選ぶという法的処置をしていただければ良いわけです。

蓮舫さんはこれまでに 18 歳で日本国籍を取得して台湾籍（中華民国籍）を抜いたなどと虚偽の説明を繰り返してきましたが、今年の 9 月 6 日によ

うやく「いまなお確認が取れない」と白状して台湾籍（中華民国籍）の除籍手続きをすることを明らかにして、その後の9月23日に蓮舫さんより手続きが完了したとの報告がありました。蓮舫さんは、1997年に雑誌CREAの「蓮舫の在北京的妊娠生活」において「自分の国籍は台湾なんです」と書いていますし、蓮舫さんが自身の二重国籍を意識していたのは間違いないでしょう。蓮舫さんのこれまでの説明は二転三転してきましたが、彼女は国民に対して平気で嘘をついていたのです。

蓮舫さんは、彼女の初の選挙である2004年の参議院選挙の選挙公報に「1985年、台湾籍から帰化」と虚偽の記載をしています。これは経歴詐称を禁ずる公職選挙法に抵触します。経歴詐称によって辞任に追い込まれた議員が過去に何人もいましたし、最近も日銀審議員に就任した方の経歴詐称について週刊誌が指摘する騒ぎがありました。この方は博士号を取得していないにもかかわらず、日銀のホームページには「博士課程修了」とあたかも博士号を取得しているような書きぶりであったために問題となったのです。このように、公人が経歴詐称をすればその地位から落とされることになって仕方がないことです。

蓮舫さんが国会に打って出る最初の選挙で有権者に虚偽の情報を与えて当選したのは大問題です。その内容が国籍に関するとなると「うっかりしていた」と済まされる話では到底ありません。今回の二重国籍問題が発覚したのは民進党代表選挙の最中でしたが、選挙以前に二重国籍問題が発覚していたら蓮舫さんが代表に選ばれていたかどうかはわかりませんし、選挙のやり直しを求める声も上がっていました。国会議員の資格のない人が責任もとらずに党の代表として平然と居座っているのは非常におかしな話であります。

今回の二重国籍問題は、蓮舫さんが二重国籍であったかが問題であるのはもちろんですが、国民の代表たる国会議員である蓮舫さんが国民に対して平気で嘘を垂れ流していたことが問題の核心なのです。蓮舫さんの虚言癖は今に始まったことではなく、かつての民主党政権時代に蓮舫さんが大臣を務めていた時の国会答弁でもそうでした。私は国会で蓮舫さんの様々な問

題を追及しましたが、蓮舫さんは自身に都合の悪いことを突かれると知らぬ存ぜぬを決め込んで言い逃れるのです。

一つ例を挙げましょう。蓮舫さんの後援者の一人が2005年に脱税や覚せい剤取締法違反容疑で逮捕されて大きく報道されましたが、それ以降も蓮舫さんはその人物と交友を続けていました。2011年の国会において私は何故そのような人物とお付き合いしているのかと問い詰めましたが、蓮舫さんは(2011年に)週刊誌の取材を受けるまで逮捕事実を知らなかったと答弁したのです。2005年の報道の時点で蓮舫さんがそれを知らないわけがないのですが、しかし、このような内心に関わることは他者が真相を究明することができませんし、知らぬ顔をしてしまえばそれで通ると蓮舫さんは思っているのです。

蓮舫さんは全く不誠実で信用の置けない人物ですし、政治家として失格なのは言うまでもありません。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>